

[前のno.へ](#)[次のno.へ](#)[市数研のTOPへ](#)

市数研だより

平成15年10月6日発行

no. 2

熊本市中学校数学教育研究会

実りの秋が訪れました。各学校では様々な行事への取り組みが、熱を帯びていることかと思えます。先生方も、朝早くから夜遅くまでお忙しくお過ごしのことでしょう。

そんな忙しいときでも、いやそんなときだからこそ、お互いで時間をつくり、数学の授業のことについてみんなで議論したいものです。秋の夜長、時には数学の授業のことを一緒に考えてみませんか。

「学ぶ姿勢をなくした者に、教える資格はない」この夏、私が出会った心に残る言葉です。

第3回定例会の報道です

9月の市数研定例会が、9月18日（木）、藤園中学校図書室で行われました。

2学期が始まって忙しい中に、そして、これまでと変わって第3木曜日の開催となりましたが、12人の先生が参加されました。

いよいよ迫り来る来年度の県大会への機運が高まりを見せています。この夏休みの様々な研修会での取り組みも披露されました。

1 オープニング

市数研会長の稲津孝夫校長先生（湖東中）より

「日暮れが早くなりました。夏休みが終わりました。来年度の県大会が動き出しています。どうぞ取り組みのほうよろしくお願いします。」といったお話がありました。

2 ミニ講座

堀之内先生（楠中学校）の「先進校視察報告」

「少人数指導・小中連携の取り組みについて」
～東京都品川区立荏原第3中の実践例より～

「少人数指導」「小中連携」は来年の県数大会のキーワードでもあります。このことに、全国に先駆けて取り組んでいる中学校の様子を報道していただきました。

「少人数指導」については数学の習熟度別少人数学習指導を各章の終わりの段階で取り入れているそうで、1つのクラスを4つのグループに分けて授業を実施しているということでした。

「小中連携の実践」では、関係の小学校に「ノ



ートのとり方の指導を徹底してほしい」という要望を中学校側からしたところから小中連携の取り組みがスタートしたそうです。

ノートのとりかた1つにこだわることからはじめた小学校と中学校の連携。生徒の基礎的な計算力はアップしているとのこと。

「今度また研修の機会が与えられたので、今度はその学校で授業をしてみたい」と堀之内先生の言葉です。

3 この夏休みの研修報告

九州数学大会（福岡）報道 澤田先生（武蔵中）

全体講演、中学部会講演、研究発表会について簡単な報道と感想を話していただいたあと、公開授業の1つ、3年生の「三平方の定理」の指導法について、みんなで検討をしました。

「大小2つの正方形の面積を合わせた面積をもつ正方形を作る」という題材です。

福岡大会の授業には、「ピタゴラスの椅子」という、あまり聞き慣れない言葉も出されていて、参観者の興味をひいていました。これまでの自分の実践を比べながら、それぞれの指導法の良さについて議論が行われました。

同じ題材で授業を行った事例が、小田先生（白川中）から紹介されました。

「福岡県に負けないような大会を...」と、先生方の刺激になったようです。

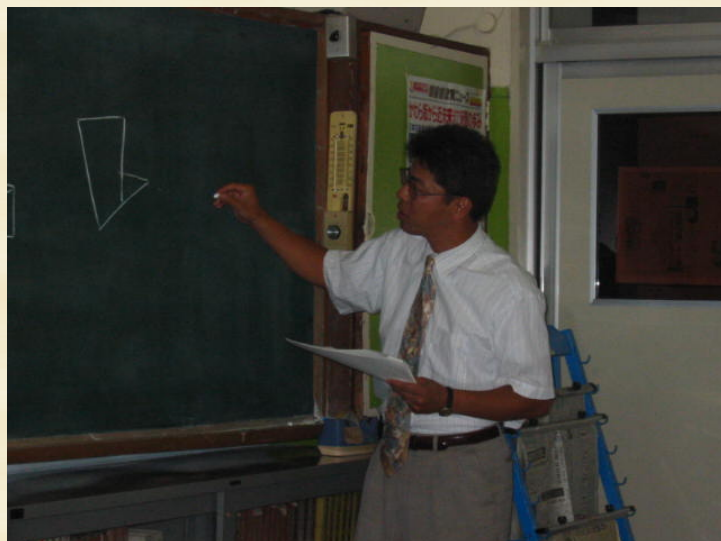
県教育課程研修会に参加して 北里先生（東町中）

「生徒が数学をより好きになり、よりできるようになるための効果的な方法」についての研究の成果を話していただきました。

また、授業の中のさまざまな活動を生徒がどんなふうに感じているか、アンケート調査をし分析をされたそうです。例えば、数学の得意な生徒は「難しい問題に挑戦する」ことを「ためになる」と捉えていたり、「大切なポイントをノートにまとめる」ことはほとんどの生徒が「ためになる」と捉えているようです。

県の合宿研に参加して 野田先生（西原中）

赤谷村村長の江崎拓郎氏の講演「元気になるスローライフ」の中では、「自分の頭に浮かんだことはすべてやろう。」「いろんな出来事は、すべて自分にとって中立である。不平等な



どないのだ。」「目の前のことに夢中になる。」などの言葉が印象に残る、とても元気をもらえる話だったそうです。

そのあと、日数教の報道が錦ヶ丘中の武田先生よりありました。おもしろい教材も紹介されました。

午後のミニ講座は、玉東中の平島先生。「教師の指導力は日ごろの研修によって培われる」ということを実践を交えてのお話だったとのことでした。

この会のうわさを聞きつけて、福岡からも4名の先生が参加されたそうです。熊本の取り組みの高さを示しているようです。

あわせて、堀之内先生(楠中)からは合宿研の中の「IT講習会」に参加されての報告がありました。

県数学教育研究会のホームページにこれからは市数研も直接アップできるようになったので、いろんな取り組みをこれまで以上にホームページに公開していくことができるようになるということです。



4 県大会に向けての取り組み

桃崎先生(武蔵中)より、「市数研のすすむ道」と題して提案されました。

来年度の県大会開催を踏まえて、どのようなコンセプトで研究を進めていくかという内容です。

「ねばり強く考える」や「鍛える授業」のなどの言葉がキーワードの案として出されました。

そのあと、事務局長の宮崎先生より「来る県大会の授業者を…」と募りましたところ、何人もの先生が「授業をやりたい」と手を上げられました。

(ほんとですよ)

9月の研究会に参加されなかった先生の中で、「自分もやりたい」と思っておられる方々、まだ間に合います。どうぞ、10月の定例会にご参加下さい。



5 先生方ヘインフォメーション

宮崎先生(藤園中)より、いくつか連絡、お願いがありました。

10月、11月の市数研定例会もそれぞれ第3木曜日に実施したいということで、提案がありました。参加の先生から賛同を得て10月16日(木)11月20日(木)にそれぞれ藤園中学校で開催します。

今年の県数学教育研究大会は、松橋中学校で11月13日(木)に開催されます。

ご参加希望の先生は、藤園中学校の宮崎先生まで、お問い合わせください。

6 エンディング

最後も稲津校長先生に締めていただきました。盛りだくさんの内容で、予定の時刻をずいぶん過ぎての終了でしたが、あっという間に時間が過ぎたような感じでした。

以上、9月定例会の報道でした。

<お詫び> 7月の定例会の報道が記録データの破損のためできなくなりました。この紙面をかりまして、お詫び申し上げます。

定例会への多数の先生方のご参加をお願いしま
す！！

各学校から1名、是非お願いします！

皆さんと共に歩む市数研です。

(文責：京陵中学校 出崎友

英)